

8 水との闘い、治水工事のエキスパートが住む地

中央市

昭和町

昭和町や中央市の西端には釜無川が南流する。このため一帯は昔から河川氾濫による洪水の被害をたびたび受けてきた。押し寄せる濁流から土地を守るために堤防の整備が進められ、人々は安心して暮らせるようになった。「かすみ堤」とよばれる堤防のおかげである。戦国時代末に、釜無川扇状地の扇頂部に信玄堤と呼ばれる堤防が築かれると、そこから延長して徐々に河道から離れながら雁行するいくつもの堤防が築かれたが、「かすみ堤」もこの一部であると考えられる。

この一帯にも、水の脅威から土地を守り続けるための治水技術と体制が存在したものと考えられており、三井氏、小池氏、饗場氏などの土豪たちは、このような治水システムの中でその役割を果たしていたものと考えられる。

みなものよしま

1 源義清館跡(義清神社)

源義清が晩年を過ごしたと伝承のある神社。1985年に発掘調査がおこなわれ、帯状の土塁やその内側からかわらけがみつかった。付近には義清墓の伝承がある義清塚がある。



よしまよしやどうひょう

2a 義清社道標

義清神社への方角を示す石の道標。「義清社」「甲斐源氏祖後舊跡」と刻まれている。寛政第六甲虎歳(一七九四年)とあり、義清六百五十年祭に建てられたもの。昭和町指定文化財。



よしまよしやどうひょう

2b 義清社道標

義清神社への道標。近世になると、身延山参詣で「みのぶ道」を通る旅人が急増し、義清神社の参詣者も多くなった為に、この道標が建てられたのではないかと考えられている。



かみがとう

3 上河東屋敷跡(熊野神社)

上河東集落の北端に位置する熊野神社もまた屋敷跡と考えられている。北辺に50cm程度の高まりがあり、土塁の痕跡と思われる。



げんが

4 玄賀屋敷跡(妙福寺)

妙福寺付近にあり、地元ではげんか屋敷と呼ばれている。加藤玄賀の屋敷跡と伝わる。



かさい

7 かすみ堤(河西かすみ堤公園)

釜無川の氾濫から集落を守るために築かれた堤防。不連続であることで、水の流れを弱めたり、あふれた水をもとの川に戻すことができる。堤防は継ぎ足され、造り直されながら利用された。発掘調査で、堤防を守るための仕組みである蛇籠や牛籠がみつかった。公園以外でもかすみ堤を見ることができる。



6 妙福寺

穴山信友により身延町長谷寺に寄進された県指定文化財の鰐口を所蔵する。天文4年(1535)の銘がある。

堤防遺構を見る